

令和6年度第2回 浦安市児童センター運営懇談会

- 会議資料 別紙参照
- 開催日時 令和7年1月30日（木）午後6時～7時10分
- 開催場所 東野児童センター 視聴覚室
- 出席者
 - （委員） 瀬尾会長（浦安市小中学校校長会）
池島委員（民間有識者 浦安子ども劇場）
岡委員（民間有識者 よみきかせサークル ルフラン）
酒匂委員（民間有識者 浦安市母子保健推進員）
古市委員（民間有識者 浦安市母子保健推進員）
濱口委員（浦安市民生委員児童委員協議会）
小神委員（浦安市民生委員児童委員協議会）
山田委員（浦安市青少年相談員連絡協議会）
植草委員（健康こども部保育幼稚園課長）
佐藤委員（健康こども部青少年課長）
 - （事務局） 健康こども部長 山崎
健康こども部次長 宇田川
健康こども部児童センター 高梨所長
東野児童センター 井田・本多・片倉
高洲児童センター 斉藤・宇田川・内田・太田
- 開式
 - 会長挨拶・自己紹介（瀬尾会長）
 - 議事
 - （1） 令和6年度 前期事業報告
 - （2） 令和6年度 後期事業計画
 - （3） その他
- 閉会

○ 開式 事務局より

本日は委員 12 名のうち、10 名が出席。設置要綱第 7 条第 2 項により会議は成立する。

○ 当懇談会の傍聴希望者 なし

○ 会長挨拶

○ 自己紹介

○ 議事

(1) 令和 6 年度 前期事業報告について

動画・写真をご覧くださいながら主な事業報告をする。

東野児童センター

こども健全育成事業について (P 8)

・ハロウィン児セン

10月最後の日曜日に、キッズスタッフの企画を中心に行った。

キッズスタッフが企画、運営した事業を 2 つ紹介する。

1 つ目は「ハロウィン絵合わせ」神経衰弱のようなゲームで、小学生と幼児向けに分けて行った。一番早くゲームをクリアした子はお菓子の詰め合わせが貰える。

幼児向けでは、小学生より難易度を下げ、幼児が見つめることができるよう、キッズスタッフが盛り上げ、探すのを手伝った。

2 つ目は「引っ越しゲーム」3 か所に敷かれたマットのうち 1 つを選ぶ。マットの下にお化けの絵が置いてあり、キッズスタッフが箱からランダムに引いたカードと同じお化けの絵のマットにいたこどもは、お化けに捕まったことになりゲームオーバーとなる。最後の 1 人になるまで繰り返し行うゲームである。参加したこどもに、キッズスタッフからお菓子をプレゼントした。今後もキッズスタッフが主体となる企画と一緒に考えていこうと思う。

・ペットボトルツリー点灯式

ペットボトルツリー点灯式は、少なくとも 12 年以上続いているイベントである。例年シルバー職員が中心となって行っており、今年度は平均年齢 73 歳の職員 7 名で行った。ペットボトルツリーに使うペットボトルは、こども達がクリスマスにちなんだ絵を描き、それをオーロラ紙の入ったペットボトルに貼り完成となる。

シルバー職員全員であれこれと考えながら、安全面に注意しペットボトルツリーを組み立てた。ペットボトルツリーの周りにプレゼントの箱を飾ったことで、こども達はワクワク感が増したようだった。ペットボトルツリー点灯式に向け、事前に司会者やコーラスのこども達を募集した。点灯式では、皆でカウントダウンをし、来館者や職員の笑顔が溢れた瞬間だった。とても暖かい雰囲気のペットボトルツリー点灯式となった。

高洲児童センター

子育て支援事業について（P17）

・ハワイアンリトミック

ハワイアンリトミックとは、手遊びの曲などをハワイアン風にアレンジしたもの。ウクレレに合わせて、手を叩いたり体を動かしたりする。対象は、市内在住のお座りができる子から未就学児と保護者である。講師からハワイアンの衣装を借りて、写真スポットを作ったことで、母親は、可愛い我が子の姿を撮影し喜んでいった。手遊びでは、こども達はマラカスを手に持って、ウクレレに合わせて鳴らしたり止めたり、体でリズムを感じながら楽しみ喜んでいった。事業後のアンケートでは、「知っている手遊びの曲がハワイアンバージョンで変化があり良かった」「初めてのハワイアンリトミックで貴重な体験ができた」「普段とは違いゆったりとした時間だった」という感想をいただいた。今後も親子で触れ合う楽しさを味わってもらえる事業を実施していきたい。

こども健全育成事業（P16）

・未来のパパママ体験

昨年度1名だけの参加だったので、今年度は早めにポスターを貼るなど広く周知し、14名の方が参加してくれた。初めに保育士の講義で赤ちゃんの成長や、赤ちゃんとお母さんの24時間について学んだ。首の座っていない3キロの赤ちゃん人形の抱っこ体験や、妊婦体験では10キロの妊婦ジャケットを着用して、床に落ちたハンカチを拾う、靴下の脱ぎ履きなどの体験をした。「思った以上に重かった」「赤ちゃんを抱っこするのは難しかった」「妊婦エプロンは重かった」「ママって大きなお腹で大変だったね」などの感想があった。その後、実際に赤ちゃんと対面すると、初めはどのように関わって良いか戸惑っていたが、抱っこしたり遊んだりしているうちに自然と笑顔になっていった。

こども達は、自分が赤ちゃんの頃も皆に可愛いつて思われていたこと、赤ちゃんを身近に感じるきっかけになったようだった。またママ達も、小学生に親しみが湧き、10年後の我が子もこんなふうになるのかと楽しみになったようだった。赤ちゃんとの出会い、触れ合い、関わることによって、思いやりの心、命を大切にする心の育ちへと繋がっていった。小学生にとってもママ達にとっても実り豊かな事業になったと思う。

子育て支援事業

・子育てママの骨盤体操（P18）

お子さんを抱っこすることで腰痛を抱えるママに、正しい抱っこひものつけ方で腰への負担を軽減し、快適な子育てが送れるよう支援していくことを目的に、正しい抱っこひものつけ方講座を実施した。

抱っこひもは腰骨の上にベルトを装着し、肩ひものベルトを背中できつく締めることで、胸が開き猫背になりがちな姿勢が美しくなる。特別な事をしなくても、正しい姿勢で散歩や買い物ができ、忙しいママにはもってこいだと感じた。

ママ達のネットワークで、ママ達の腰痛が軽減されたら良いと思う。

また、今回の事業がとても好評だったことから、2月の土曜日には「ママ・育メンパパの抱っこひものつけ方講座」を予定している。土日の児童センターは、抱っこのパパがとても多いので、ぜひ働くママやパパに参加してほしい。

・今年度から開始した取り組みについて

公民館内に併設されているメリットを活かし、日頃から公民館のエントランスの中高生が勉強している場所に、児童センターのポスターを貼り、中高生の利用増加を目指している。児童センターは、幼児親子や小学生が利用する場所と思われるがちなので、中高生も利用できることを周知し勉強の合間に利用してもらっている。実際にポスター掲示以降、中高生の利用が増えている。

・職員のちょっとした一言を拾い、実現した事の紹介

「未来のパパママ体験」を担当したプレリーダーから、「初めて参加させてもらいとても素晴らしい事業だったので、事業の実施内容や、こども達の感想を紙面にしたらどうか」という提案があり、児童センター前のエントランスに掲示した。児童センター利用の方だけでなく、公民館に来た方も目に付く場所に貼った。足を止め、読んでくれているこども達がたくさんいた。今回掲示することで、自分も参加してみたいと思ってもらえるよう、事業の内容をよりわかりやすく、参加者の感想なども記載した。今後も参加者を増やす工夫をしていきたいと思う。

◎質疑応答

会長：事業報告について質問はないか。

委員：抱っこひもの正しいつけ方は、猫背の解消にもなるので、子育てサロンのママ達に伝えようと思う。ハロウィンやハワイアンリトミックなど大変工夫されていると思う。利用する対象が0歳から18歳までということで、年齢の幅が広く事業を計画するのも大変だと思う。そんな中で今回の中高生の方たちの利用増加を進めていることがありがたいと思う。

委員：いつも話題になっているが、児童センターと繋がることのできるこども達は、本当に幸せだと思う。公共施設や相談に繋がる力というのは、地域によって格差があると思う。女性の支援をしているボランティアに参加した事があるが、渋谷や新宿など都内では、少女や女性にとって大人は「怖い人」となっている。一番被害に遇いやすいのが少女で、性被害である。そういった行為と引き換えに居場所を提供してくれるのが大人、自分達を傷つけるのが大人、そんな風に大人をインプットしている。「そうじゃない、力になってくれる大人もいるよ」と発信しているボランティア団体だった。児童センターは18歳まで利用できるので、身近にこういう所がある、家に居られなくても居場所があるっていいなと思った。また小さいうちから児童センターや公民館に来ていると大きくなっても来やすいと思う。どこかに相談できる、そして繋がる力を培っていったらと改めて思った。

会長：まさしく学校のこども達も地域の公共施設に助けられていることが多々あり、居場所

を提供していただいて、ありがたいと思う。

委員：東野児童センターでも5月に高校生が5名参加しているが、こどもの日まつりへの参加か。

事務局：何日に利用したかの資料が手元にないが、東野児童センターは高洲児童センターと違い独立した施設になっている。高洲児童センターは公民館の中にあるので、中高生が比較的入りやすい。一方、こちらの施設は東野児童センターだけなので目的がないと来ない。おまつりか、以前利用していた子が顔を見せに来てくれることもあるのでいづれかだと思う。

委員：顔を見せに来る、とても良いことだと感じた。前回も伺ったが、イベントでのキッズスタッフの当日の活躍を見ても素敵な取り組みだと思う。また小さい子たちが引き継ぎ経験することや、こども達がスタッフとして関わっていることで、参加するこども達も大変盛り上がり、小さい子のフォローをしている映像を拝見し素晴らしいと感じた。高洲児童センターの「未来のパパママ体験」は、こども達が体験することも大切だが、赤ちゃんのお母さんにとって、こども達との交流で、大きくなったらこんな感じになるのかなと感じることも、素晴らしい活動、居場所を提供していると感じた。

会長：本当にキッズスタッフの企画運営力が素晴らしいといつも思っている。学校でも課題を解決するする力が、未来を担うこども達の育成に繋がるということで、学習指導要領に書かれている、まさしく課題を解決するために、こんなふう運営するにはどうしたら良いだろうかと、おそらく考えながら運営しているのではないかと思う。学校でもそのような学びをさせていると思うが、更に異年齢で自分たちが関わったことのない人たちに向けて活動できる場が、自分たちが望めばあるというところが素晴らしいと思う。

委員：赤ちゃんの月齢が低いお母さんやお父さんを訪問する立場から、訪問すると、大人と話す時間が持てず、久しぶりに大人と話したと言われる。先ほどの骨盤体操やハワイアンでお母さん同士の交流や情報交換があり、児童センターは大人たちの交流の場でもあると感じた。

会長：精神的にも少し辛い時期でもあると思う。小学生、中学生になっても保護者の悩みは尽きず、このような交流を児童センターが起点となっていくことも考えられると思う。

(2) 令和6年度 後期事業報告について

後期事業について各児童センターから説明を行う

事務局：東野児童センターの定期事業は、記載のとおり。また、2月は母親講座、骨盤体操、

おもちゃの病院。3月は春休み親子お楽しみ会を計画している。

事務局：高洲児童センターの定期事業は記載のとおり。1月に高洲公民館の発表会と同日にエスレ高洲スペシャルデーを行なった。2月には赤ちゃんサロン内でベビータッチケア、ママと育メンパパの抱っこひものつけ方講座を計画している。

◎質疑応答

会長：事業計画について質問はないか

委員：東野児童センターの地域貢献事業について、団体利用受入れとあり、回数も人数も多いが、具体的にはどのような受入れを行っているのか。

事務局：団体受入れについては、主に保育園。児童センターの利用について連絡をもらい、自由に遊んでいただいている。総合福祉センターに併設している「保育室ゆるり」や隣接している東野保育園の利用も多い。そのほか、市外の団体も受け入れている。

委員：高洲児童センターの育メンパパの抱っこひも講座を聞いたが、コロナ後、訪問するとパパの在宅が多くなり育児にも参加している。パパの集いがあると良いと話している。育休や産休を取得する方が多く、夫婦で参加している。ママの集いだけでなく、パパの集いもあると良いと思ったので、抱っこひもの講座など広まれば、生後2.3か月の赤ちゃんを育てているパパママに喜ばれると思う。

会長：父親が参加できる場所、男性女性に関わらず、この事業では募集されていると思うが母親がたくさん居るから肩身が狭いなんて思われる方、或いは男同士だとわかる話もあるのに、などと思う方がいるなら、そんな場所があれば良いと思う。幼稚園、保育園、小中学校にもお父さんの会やおやじの会がある、そんな集いがあるのは良いと思う。

事務局：コロナ前は児童センターで、土曜日にパパサロンという事業があった。また機会をみて再開できたらと思う。育メンパパの抱っこひももパパの申込みがあり、需要はあるかもしれない。参加したパパの意見を取り入れながら事業を計画していきたい。

会長：熱が出た時のお迎えも、父親のお迎えが大変多くなった。また、平日の事業参観も父親、母親、両親で来る、本当に男性が多くなった。

委員：育児休業制度の2022年法改正もあって男性も取得しやすくなった。以前は一桁だった取得率も、現在では30%くらいまで上がった。期間は半年、1年とか取らず、2週間程度で補佐的なところから抜け出していない。職種によって取得できないパパもいるが、ママが仕事でパパがこどもを連れて行けるサロンを探しているという話も聞く。

前回、子育て支援団体のサロンでパパと一緒に来ることを必要以上に褒めない、ひとりで来るお母さんを追い詰めないように心掛けていているという話があった。育メンパパはあっても育メンママはない。育メンパパという名称はどうかと思う。パパもやって当たり前という、小さいことだが刷り込みワードは気になる。

会長：父親も参加しやすく、それが当たり前の世の中になるように。育メンと言っている時点で既にアウトだと聞く、そのとおりだと思う。

委員：楽しいイベントにするようこどもに寄り添って考えている。キッズスタッフも生き生きして協力し合っていく頼もしさを感じた。ひとつひとつ映画の終わりのようで拍手を送りたい気持ちになった。

委員：映像と説明でどの事業もとても素晴らしいと思う。シルバー職員とはボランティアなのか。

事務局：会計年度任用職員のシルバーという職種。65歳以上で事業に関わってくれる人を募集し任用している。

委員：こどもと関わる仕事は良いと思う。高洲公民館にポスターを掲示して中高生利用が増えたこと素晴らしいと思った。以前は利用がなかったので。公民館には自習をしている中高生が常に居る。卓球やマンガなどで息抜きができる。ポスターの影響は凄いと思う。

委員：青少年施設でも中高生の利用が少ない、どのように増やすかが課題。ポスター掲示の工夫は参考になった。地域貢献事業のおもちゃの病院についてどのような方か行っているか教えて欲しい。

事務局：おもちゃの病院うらやすという団体がボランティアで行っており児童センターでは定期的に行い、利用者に喜ばれている。

議事終了

(3)その他

事務局：以上をもって、閉会する。

○ 閉会